SSH NEWS 2026.　第 28 号

SSH NEWS

未知に、挑もう。

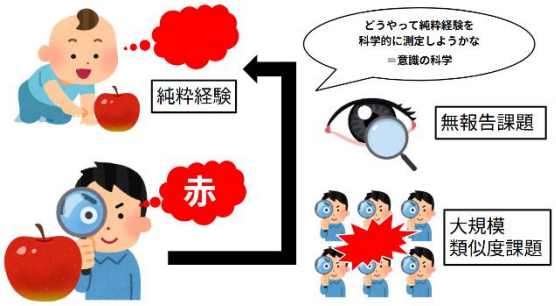
神奈川県立横須賀高等学校

SSH News Scope vol. 5 ～ニュースから探究を始めよう～

今年度から不定期で、SSH 委員が気になるニュースを新聞やネット記事などから見つけて皆さまにお伝えします。身近な「なぜ」から探究は始まります。日々のニュースには科学や社会について考えるきっかけがたくさんあります。皆さんもニュースをきっかけに「なぜ」を見つけて一緒に考えてみませんか。
vol. 5 は**２年４組 岡田 悠志**さんからお届けします！

意識の科学の最先端「純粋経験」

純粋経験は，判断や言語化の前にある経験そのもののことです。「私がりんごを赤いと思う」ではなく「赤いりんご」むしろ「赤」だけです。私という主体がりんごという対象を赤いと思うという経験を持つ，という枠組みを一度捨ててみようという話です。赤ちゃんや動物は「赤」と言語化しないでしょうから，彼らの意識は純粋経験でしょう。(中略)...眼球運動などを計測すれば，無報告でも主観経験を高い精度で予測できる状況も知られています。「無報告課題」により，純粋経験の神経基盤に近づける可能性があります。無報告課題では直接に実験参加者から報告を得ないので，どうしても不安が残ります。(中略)...無報告課題と組み合わせて使うと有望なのが「大規模報告課題」です。オンラインで実験を組めば，実験室では難しい大量の知覚刺激に対して，大多数の実験参加者からデータを得ることが容易になります。これを活かし，予測ができない刺激を一瞬だけ見せられたとき，言語や視覚プローブを使って，視覚経験の中身を各参加者が部分的に報告する。それらを総合したものを参加者集団が共通に経験しうるものとみなせます。



イラスト作成：岡田悠志

日本心理学会 HP
https://psych.or.jp/publication/world099/pw20/より抜粋

科学と意識が相容れないとされ始めたのは 17 世紀、デカルトらの働きに依ります。が、この哲学者デカルトは「我思う、ゆえに我あり」という言葉の通り、自我の存在こそ不変の真理であると主張しました。真理を求める科学が、真理であるはずの意識を研究から排除してきたことは考えてみるとおかしな話です。この理由は意識に客観性はないとされたところにあります。しかし近年、意識に客観性を求める科学が発達しています。意識研究では、思考を経ないありのままの「純粋経験」の観測が求められます。赤ちゃんが見ている世界と言い換えていいでしょう。純粋経験を調べる方法に、本文では「無報告課題」と「大規模類似度課題」が挙げられています。ところで「科学が意識を排除している」ことは次の思考実験でわかります。あなたの自我は確かに存在していますが、あなた以外の人間に自我は存在していると断言できますか？科学的にそれらを証明することはできないのです。これは科学が意識を排除していることを意味します。意識研究の意義の一つはこの証明にあります。意識を科学の計算に入れる偉業は不可能に思えても、こうした地道な方法論に始まると私は信じています

２年４組 岡田 悠志

【プロフィール】
岡田 悠志さん
Principia では１年次から横須賀リサーチパーク(YRP)に所属し、１年次では「解読不能な暗号技術が開発されている！？」を研究。今年度は１年次の研究を発展させ、「クオリア通信の実現」について研究している。
SSH 委員会の活動でも、課題研究発表大会(R7)のポスターを作成したりと、多方面で活躍中！

